

担い手育成特定資産助成事業 活用事例紹介 吉田 司さん（陸前高田市）

大船渡農業改良普及センター 平田将大

令和3年度に「イドバタ・アップル」という屋号で独立（りんご・55a）した陸前高田市米崎町の吉田司さんを紹介します。

吉田さんは、地元の岩手県立高田高校卒業後、県内外のホテルや飲食業・観光関連の仕事に従事し、飲食業での独立を目指していました。しかし、東日本大震災の際の支援物資の中に入っていた「米崎りんご」の味とその産地の現状を知り、就農を決意しました。

陸前高田市内でりんごを生産する法人における3年間の研修期間を経て現在に至ります。スマート農業にも積極的に取り組んでおり、令和3年度に担い手育成特定資産助成事業の「新規就農スタートアップ支援事業」を活用し、「ロボット草刈機」を導入しました。時間と手間がかかる草刈りをこの機械に任せることによって、りんごの管理作業への集中とマーケティングの時間の確保につながっています。

吉田さんは「冷蔵庫と作業場を整備して繁忙期の作業効率を上げること、閑散期にも農作物の販売以外で収益を上げること（プロセスエコノミー等）に取り組んでいきたい」と話しています。

様々な取組を行う吉田さんは、「米崎りんご」の新たな担い手としての活躍が期待されています。



りんごの管理作業を行う吉田さん



りんご園地の雑草を自動で刈る「ロボット草刈機」